

## 米価下落に対する緊急対策を求める要望書

米価の下落は、2009年産米が出始めた昨秋から目立ち始め、今年は新米に対する概算金が、前年対比60キログラム当たり、2,000円から3,000円も低下し、更に、今夏の高湿障害により品質の低下を招き、1等米の比率が減少している状況である。ここ数年来、多くの農家にとって生産費を大幅に下回る米価が続いている中で、さらなる米価の下落は、農家の生産意欲を後退させ、日本農業の大黒柱である稲作の存続を危うくするものであり、国民への主食の安定供給に支障をきたしかねない。

また、今年度から国民の血税を投入して農家への戸別補償が始まり、それを見込んだかのように米価が下落しては、農家の実収入はほとんど増加することなく、大手小売や農協等に対する収入の補償となりかねない。

こうした状況を踏まえ、国におかれては、米の再生産を確保し地域農業を維持発展する観点から、余剰米の買い入れをはじめ、米価の下落に対する緊急対策を講じられるよう強く要望する。

平成22年11月24日

農林水産大臣 鹿野 道彦 様

南丹市農業委員会

会長 野中 一二三